

職業実践専門課程の基本情報について

平成29年5月1日

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
国際メディカル専門学校	平成14年1月9日	白倉 政典	〒950 - 0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025 (255) 1511			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565			
目 的	近年の医療の進歩において、医療機器の操作および管理を行うスペシャリストの必要性が高まっている。本学科では充実した医療機器を備え、また臨床実習を通して医療現場でチーム医療の一員として、適正かつ安全に医療に貢献できるしっかりとした知識技術を持つ臨床工学技士を育成することを目的としている。また医療現場における、信頼される技術力と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的としている。					
分野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	臨床工学技士科	3年(昼)	2930単位時間 (又は101単位)	平成17年3月9日 文部科学省告示 第三十二号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		2495単位時間 (又は89単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	435単位時間 (又は12単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		105人		5人	41人	46人
学期制度	■前期：4月1日～9月21日 ■後期：9月22日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 期末の試験、出席率等による。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月下旬～4週間 ■冬 季：12月下旬～2週間 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	学科カリキュラムに規定する 卒業に必要な単位をすべて 修得すること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア、地域貢献活動、 町おこし活動への参加 ■サークル活動 (有・無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 病院、クリニック、 医療機器メーカー ■就職率92.1% ■卒業者に占める就職者の割合 89.7% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年 5月1日時点の情報)			主な資格・検定	臨床工学技士 第2種ME技術実力検定 ほか	

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 1.7%</p> <p>平成28年4月1日在学者 115名 (平成28年4月入学者を含む)</p> <p>平成29年3月31日在学者 113名 (平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 校全体、学科単位での動機付け、個別ガイダンスの実施。</p>
ホームページ	URL: http://www.icm-net.jp/

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

臨床工学技士科では臨床現場見学、早期体験実習、臨床実習など低学年から最終学年まで医療現場との連携を通して、チーム医療の一員として、適正かつ安全な医療に貢献できる臨床工学技士の育成を目指している。

現在の臨床工学技士が活躍する医療現場では医学に関する知識、医療機器に関する知識技術のみでは、不十分である。低学年における医療現場との連携から、人の生命を預かる医療人としての責任の重さを自覚するとともに、患者様への対応や他の医療職種との連携の重要性について学習できる環境を整えている。また学内においては医療人および臨床工学技士として必要とされる接遇マナー、コミュニケーション、疾病に関する知識、看護補助に関する知識技能、医療機器に関する知識技能を学べるようカリキュラムを編成しており、学んだ知識をもとに医療現場での実際の業務を体験しながら、必要な知識の定着を図るとともに現場実践での新たな気づきから、目標とする人材像への今後のアプローチを図る上でのモチベーションを高めるようにしている。

さらに専門分野である臨床工学に関する知識を有する関係者および学術関係者から構成される委員会を組織し、意見を聴き、教育課程の編成の参考とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月31日現在

名 前	所 属
五十嵐 直大	新潟市民病院 臨床工学科 科長
後藤 博之	新潟県臨床工学技士会 会長
白倉 政典	国際メディカル専門学校 (学内委員)
佐藤 秀幸	国際メディカル専門学校 (学内委員)
小林 克明	国際メディカル専門学校 (学内委員)
泉 秀子	国際メディカル専門学校 (学内委員)

(開催日時)

平成28年度 第5回 平成28年3月14日 18:00~19:30

平成28年度 第6回 平成28年9月9日 18:00~19:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

患者を中心としたチーム医療における臨床工学の重要性を臨床現場で学ぶことにより、他の職種との協調性を養い、また臨床工学技士の使命を自覚し、医療の発展に寄与できる基本的な技術と知識を身につけることを目的とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習	臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。	新潟市民病院 新潟県立中央病院 新潟県立新発田病院 新潟大学医歯学総合病院 日本海総合病院 他 全16施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教員は専門分野において、最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されている。そのため、法人本部、学校内および外部機関との連携の下、職業に関連した実務に関連した知識、技術および技能ならびに授業および学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 3 月 31 日現在

名 前	所 属
野水宏一	新潟県立吉田病院 事務長
田村泰生	医療法人愛広会 人事部長
仲野隆一	社会福祉法人愛宕福祉会 人事部長
池井淳子	元 国際メディカル専門学校看護学科副校長
佐藤桜子	国際メディカル専門学校 校友会会長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.icm-net.jp/publicinfo.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.icm-net.jp/publicinfo.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程医療事務学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			物理学	「機械工学」「物性材料工学」を学ぶための基盤作りとして、力、流体、熱、波動の基礎的物理解説について学ぶ。	1 通	60	2	○		
○			化学Ⅰ	生化学を学ぶための基盤づくりとして物理化学を学ぶ。化学Ⅰの講義範囲は、物質の構成に関連する領域を中心とし、臨床工学と関係の深い領域についても取り扱う。	1 前	30	1	○		
○			化学Ⅱ	生化学を学ぶための基盤づくりとして物理化学を学ぶ。化学Ⅱの講義範囲は、物質の変化に関連する領域を中心とし、臨床工学と関係の深い領域についても取り扱う。	1 後	30	1	○		
○			心理学	心理学の基礎的知識及び人間心理と人間の行動について学ぶ。	1 前	30	1	○		
○			倫理学	人倫の道德の模範となる原理、道德の起源、発達、本質模範、患者および治療者のモラルと生活を個人・社会の両面から考える。	1 後	30	1	○		
○			英語Ⅰ	専門分野の英語文章の読解をめざす。文献に慣れ親しみ、英語を英語として読み・考える能力を養う。	1 通	60	2	○		
○			英語Ⅱ	専門分野の英語文章の読解をめざす。文献に慣れ親しみ、英語を英語として読み・考える能力を養う。また臨床工学技士に必要な医学英語について学ぶ。	2 前	30	1	○		
○			独語	教養としての日常独語を文法、読本を通して聞く・話す・書く・訳す等基本的な能力を養う。医学関連用語の習得。	1 前	30	1	○		
○			体育実習	心身のバランスを保ち、健全な生活を送ることができるように健康の保持・増進に必要な動作を実践する。また、実習を通して、チーム・連帯意識・協調性などを意識付ける	1 後	30	1			○
○			スタディ・スキルズ	専門学校での学習に必要な心構えや技術などを習得し、学校生活を豊かで有意義なものにする。	1 前	15	1	○		

○		コミュニケーション学	「話す・聞く」技術を総合的に学び、より効果的・的確に意見を伝えられるコミュニケーションの体得を目指す。	1 前	15	1	○	△	
○		プレゼンテーション学	「コミュニケーション学」の実践的位置づけとして、論理的な物の見方、考えのまとめ方、意見の出し方を学び、プレゼンテーション能力と論理的思考を養う。就職に対する心がまえを学ぶ。	2 後	15	1	○	△	
○		ビジネス実務	就職シーンで必要となる、また社会人としての基本的マナーを身につけるとともに、円滑な就職活動ができるよう実践的能力を養う。	3 前	20	1	○		
○		人の構造及び機能	人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、関連科目を習得するための基礎的能力を養う。	1 通	90	3	○		
○		病理学概論	病気になったときの細胞、組織、臓器の形態的变化を理解する。主な疾病の病理学像及び検査を学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		基礎医学実習	脊椎動物哺乳類の一種を解剖観察することを通して、人体の構造と機能を理解する。	2 前	45	1			○
○		公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生の分野について学ぶ	1 前	30	1	○		
○		医学概論	医学の発達、医療技術の発達、医の倫理などについて学ぶ。	1 前	15	1	○		
○		臨床生化学	生体における代謝の基礎及びその疾病検査との関連について学ぶ。	1 後	30	1	○		
○		臨床生理学	疾病と生理機能の関連および検査法、モニターなどについて学ぶ。	3 前	15	1	○		
○		臨床免疫学	免疫血清学および各種免疫の概要、検査法などについて学ぶ。	3 前	30	1	○		
○		臨床薬理学	臨床で使用される薬剤の作用機序、適応などを学ぶ。	3 通	30	1	○		
○		看護学概論Ⅰ	医療従事者として患者に接するにあたって要求される基本的態度、考え方など看護の本質と基礎について学ぶ。	2 後	15	1	○		
○		看護学概論Ⅱ	臨床実習前に、看護技術の実践方法について、理論及び演習を通して学ぶ。	3 前	15	1	○		
○		応用数学	臨床工学に必要な数学の基礎について学ぶ。	1 通	120	4	○		
○		電気工学基礎	臨床工学に必要な電気工学の基礎（主に電磁気学、基本素子、基礎的電気回路）について学ぶ。また、電気計測の基礎を学ぶ。	1 前	60	2	○		
○		電気工学応用	臨床工学に必要な電気工学の応用（交流を含めた応用電気回路）について学ぶ。また、簡単な回路作成とその計測について学ぶ。	1 後	60	2	○		△

○		電子デバイス工学	電子回路を学ぶ上で必要となる半導体物性、電子デバイスについて学ぶ。また、生体計測装置を学ぶ上で重要な増幅器の諸特性について学ぶ。	2 前	60	2	○		△
○		電子回路	臨床工学に関わりの深い回路を中心に各種アナログ回路、デジタル回路について回路の作成と計測実習も含め理解を深める。また、通信工学の基礎についても学ぶ。	2 後	60	2	○		△
○		機械工学	臨床工学に必要な機械工学の基礎について学ぶ。	2 前	60	2	○		
○		放射線工学概論	臨床工学に必要な放射線工学の基礎について学ぶ。	3 後	15	1	○		
○		基礎工学演習	各工学基礎分野の総合復習と臨床工学分野との関わりについて幅広く理解することを目的とし、演習を通して学ぶ。	3 通	90	3	○	△	
○		情報処理工学	臨床工学に必要なコンピュータ・ネットワーク技術の基礎、各種信号処理・制御理論、システム理論について学ぶ。	1 通	90	3	○		
○		システム・情報処理実習Ⅰ	情報処理技術の向上とそのコンピュータ利用能力の実践的育成を目指す。ビジネスシーンにおいても重要視される文書作成能力に重点を置き、その実践的能力の体得を目指す。	1 前	60	2			○
○		システム・情報処理実習Ⅱ	情報処理技術の向上とそのコンピュータ利用能力の実践的育成を目指す。本科目においては表計算能力に重点を置き、その実践的能力の体得を目指す。	2 前	60	2			○
○		システム・情報処理実習Ⅲ	情報処理技術の向上とそのコンピュータ利用能力の実践的育成を目指す。本科目においてはデータベース構築と利用能力に重点を置き、その実践的能力の体得を目指す。	2 後	60	2			○
○		医用工学概論	臨床工学技士に必要な医用工学について体系的に理解する。	1 通	60	2	○		
○		物性工学	工学的な観点からみた生体の物性を学ぶ。	1 後	30	1	○		
○		材料工学	生体の特性と人工医用材料について学ぶ。	3 前	15	1	○		
○		計測工学	生体情報の性質とその計測方法について学ぶ。	2 後	30	1	○		
○		臨床工学演習	臨床工学分野に関係の深い医学的知識及びME機器について幅広く理解することを目的とし、演習を通して学ぶ。	3 通	90	3	○	△	
○		医用機器学概論	医用機器の全体像を理解し、臨床医療における医用機器の役割について学ぶ。	2 前	60	2	○		
○		生体計測装置学	生体計測装置の適切な操作と保守点検ができるよう生体計測装置の原理・構造・操作・保守について学ぶ。	2 通	90	3	○		△
○		医用治療機器学	医用治療機器の適切な操作と保守点検が出来るよう医用治療機器の原理・構造・操作・保守について学ぶ。また医療機器の課題研究・実習を通して理解を深める。	3 通	90	3	○		△

○		血液浄化Ⅰ	代謝に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう血液浄化の原理及び血液浄化装置の構造・操作・保守について学ぶ。	2 通	90	3	○		△
○		血液浄化Ⅱ	代謝に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう血液浄化の原理及び血液浄化装置の構造・操作・保守について学び、医療現場において必要とされる技術の重要性を理解する。	3 通	60	2	○		△
○		体外循環Ⅰ	循環に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう体外循環の原理及び体外循環装置の構造・操作・保守について学ぶ。	2 通	90	3	○		△
○		体外循環Ⅱ	循環に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう体外循環の原理及び体外循環装置の構造・操作・保守について学び、医療現場において必要とされる技術の重要性を理解する。	3 通	30	1	○		△
○		呼吸療法Ⅰ	呼吸に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう呼吸療法の原理及び呼吸療法装置の構造・操作・保守について学ぶ。	2 後	30	1	○		△
○		呼吸療法Ⅱ	呼吸に関わる生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるよう呼吸療法の原理及び呼吸療法装置の構造・操作・保守について学び、医療現場において必要とされる技術の重要性を理解する。	3 前	60	2	○		△
○		関係法規	臨床工学技士として必要な法令について学ぶ	1 前	30	1	○		
○		医用機器安全管理学	医用機器の臨床応用を高い安全性及び信頼性をもって行なえるよう、安全管理に関する基礎事項について学ぶ。また、実習を通して実践的な保守管理業務について学ぶ。	2 通	120	4	○		△
○		臨床医学総論 内科Ⅰ	総論、代謝、内分泌、中毒、および臨床工学技士の業務に必要な内科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	1 後	30	1	○		
○		臨床医学総論 内科Ⅱ	腎・泌尿器、感染症・寄生虫病、免疫、アレルギー、膠原病、血液、神経、循環器、および臨床工学技士の業務に必要な内科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	2 通	60	2	○		
○		臨床医学総論 内科Ⅲ	呼吸器、消化管、肝、胆、膵、脾、腹膜、および臨床工学技士の業務に必要な内科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	3 通	30	1	○		
○		臨床医学総論 外科Ⅰ	外科学の概論（手術、滅菌消毒など）、および臨床工学技士の業務に必要な外科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	1 後	30	1	○		
○		臨床医学総論 外科Ⅱ	顔面・頭頸部、胸壁・胸膜、乳腺、呼吸器、循環器、縦隔・横隔膜、消化管、腹壁・臍・腹膜・大網・後腹膜、脾臓、副腎の疾患、および臨床工学技士の業務に必要な外科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	2 通	60	2	○		

○		臨床医学総論 外科Ⅲ	老人外科、小児外科、麻酔学、および臨床工学技士の業務に必要な外科学に関する医学的知識について幅広く学ぶ。	3通	30	1	○		
○		臨床実習	臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚する。	3前	180	4			○
合計				59科目	2930単位時間(101単位)				